

琵琶湖の保全及び再生に関する施策の実施状況

- 野洲川河口部ヨシ帯の再生
- 野洲川瀬・淵再生

国土交通省

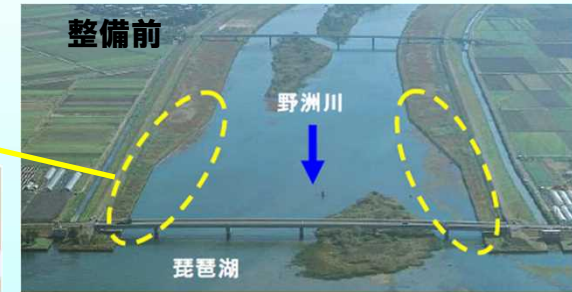
施策実施状況(国土交通省)

野洲川河口部ヨシ帯の再生

課題

魚類の生息場の消失

矢板護岸整備により水域と陸域が**分断**し、ニゴロブナなどの産卵や仔稚魚の生息場が消失。

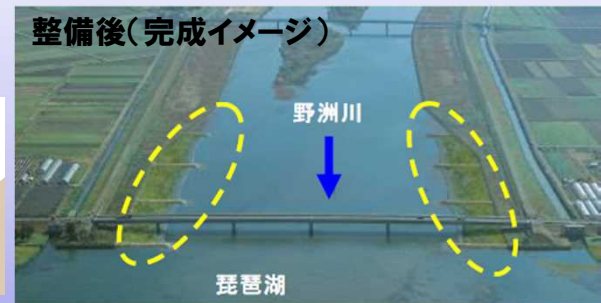
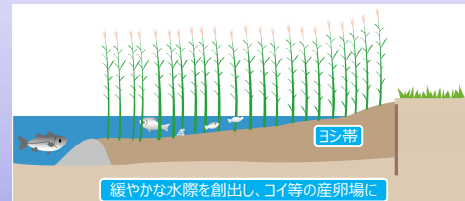


対応

魚類の産卵・生育環境を改善

ヨシ原で形成される水陸移行帯※を**再生**。

※水陸移行帯とは河川、湖沼の水面と地表面が交わる場所です。水域・陸域が混在する多様な環境であり、**生物の生息・生育環境上重要な役割**を果たしています。



整備状況

令和元年度までヨシ帯整備を実施。
令和2年度以降はモニタリングを実施。

令和3年5・6月の野洲川河口部右岸側での稚魚確認結果
1,150個体(過去3年 平均1,371個体)

施工直後
(平成22年4月23日)



施工後11年目
(令和3年8月2日)



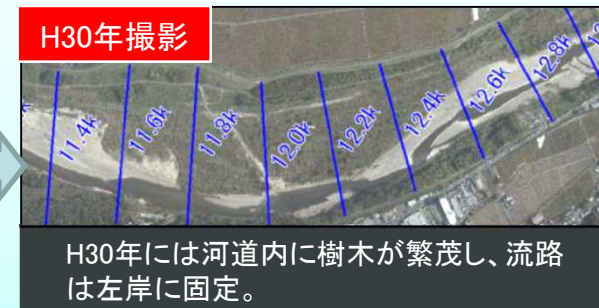
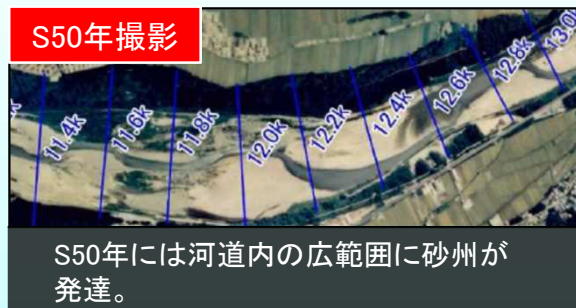
野洲川河口部 ヨシ帯 繁殖面積



施策実施状況(国土交通省) 野洲川瀬・淵再生(10.6k-13.6k)

課題 瀬・淵の消失

滞筋固定化や河道内樹林化により河道が**単調化**し、魚類の生息環境である瀬・淵等が消失。



対応 水制工による河道内攪乱の誘発

滞筋蛇行を促進する水制工を設置し瀬・淵を**再生**、アユ等を含む多様な生物の生息環境を創出。

水制工は**形状変更が簡易**な袋詰玉石とし、施工と改良を容易にします。また水制工により河道内攪乱を誘発、モニタリング調査により水制工の効果を検証、**継続的に改良施工**します。



整備状況

令和2年度より水制工の施工を開始。
令和3年度以降は水制工の整備を推進。
同時にモニタリング調査を実施。

